

2023 年 12 月 10 日

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

理事長 鈴木 佑司 様

団体名：早稲田大学国際学生友好会

代表者役職：第 58 回留学生による日本語スピーチコンテスト幹事

代表者氏名：川嶋健悟



日本ユネスコ協会連盟 **後援／協賛／協力／共催 事業実施報告書**

貴連盟に後援いただきました事業は、以下の通り終了しましたので、ご報告いたします。

事業の名称：第 58 回留学生による日本語スピーチコンテスト

名義使用承諾文書番号： 日ユ組後発 23- 038 号

事業の期間：11/6~12/10 (11/6 から活動開始、12/10 に本番)

事業の概要：

早稲田大学国際学生友好会が長年行っている、留学生による日本語スピーチコンテスト。毎年交流のある日本語学校や早稲田大学の留学生を 10 人程度募集し、彼らに弊会の会員が 10~15 名ほどついて 1 ヶ月程度、スピーチの添削や練習をサポートしていく。

今年度は 12/10(日)に大隈講堂大講堂で開催し、9 カ国から 10 人の留学生が出場した。

協賛は新日本宝石株式会社・公益財団法人 昭和池田記念財団・一般社団法人 日本在外企業協会・早稲田大学オープンカレッジ修了生の会 稲修会から頂いている。また後援としては公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟・早稲田大学日本語教育研究センター(協力)・各国大使館院日本語スピーチコンテスト実行委員会から頂いている。さらに 2020 年度からは Youtube によるオンライン配信も行っており、今年も早稲田大学放送研究会に協力してもらっている。審査員に関しては毎年当会外部の方々に依頼している。今年は日本在外企業協会から上戸達夫様・筑波大学広報次局長の高井孝彰様・NHK 国際放送局 多言語メディア部長 専任部長の久保田留奈様・早稲田大学日本語教育研究センター准教授の井下田貴子様・ヒューマンアカデミー株式会社 日本語教育事業部 教務主任の池田泉様の 5 名に務めてもらった。

注：

- 事業の様子を示す参考資料がありましたら、添付してください。
- ご提出いただく報告書は、必ずしも本書式でなくても構いません。
- 電子メールでお送りいただく場合、押印箇所を押印し、スキャンして、PDF 形式でお送りください。
- 経費はすべて主催者をご負担ください。

事業の成果：

量的) 当日は 13:30 から開演をし、60 名ほどの観客が入った。入場の際には金銭を受け取ることはしていない。また Youtube 配信における閲覧者数は多い時で 20 名ほどであった。

質的) 今年は例年に比べて出場者の国籍が多様だったこともあり、様々な価値観や思いを知ることが出来たと考える。個人的にとっても意義があった点が 2 つある。1 つ目はミャンマーからの留学生が行ったスピーチである。最近ではニュースでもよくミャンマーの国内情勢が取り上げられる。国内で暗雲が立ちこめる中で、今年はミャンマーからの出場者が 2 人いた。そのうち 1 人が「私の幸せ」というテーマについてスピーチをした。辛い環境の中でも自分自身で「小さな幸せ」を見つけていくというスピーチが彼女の心の強さを表しているように感じ、心を打たれた。結果としてミャンマー出身の 2 人が上位に食い込んでいた。2 つ目は各々のバックグラウンドがバラエティに富んでいたことである。ある留学生は両親がベトナム人でドイツで生まれ育った。そのため複数の文化に幼少期からずっと触れていることによる葛藤と気づきについてスピーチをした。また別の留学生はロシアで生まれ、カナダとスイスで育った。その中で実際の「ホーム」はどこにあるのかという葛藤と個性について述べていた。どれも彼らのオリジナリティに富んだスピーチであり、自分たちにとっては新鮮なものだった。このように自分とは異なるバックグラウンドを経験してきた出場者との活動中での対話やスピーチ本番での交流は私たちだけでなく出場者にとっても気づきや変化をもたらすものであり、このスピーチコンテストの大きな意義であると私は考える。また留学生同士も交流を深められていたので非常に良かったと思う。

注：

- 事業の様子を示す参考資料がありましたら、添付してください。
- ご提出いただく報告書は、必ずしも本書式でなくても構いません。
- 電子メールでお送りいただく場合、押印箇所を押印し、スキャンして、PDF 形式でお送りください。
- 経費はすべて主催者をご負担ください。